

# 国語科学習指導案

期日 : 平成19年2月8日  
場所 : 宮小学校2年生教室  
学級 : 2年生(男子17人女子17人)  
授業者 : 中里 美友紀

1 単元名 ようすをそうぞうしながら読もう  
「スーホの白い馬」

## 2 指導の立場

### (1) 教材観

本教材「スーホの白い馬」のもつ大きな魅力は、スーホと白馬との心の交流の美しさと、それを支える表現のすばらしさである。様子を表す言葉を、これまでの教材にない動的な表現で表しているの、その表現に目を向けさせ、気持ちを想像していきたいと考える。

児童はこれまで「スイミー」「お手紙」で物語文を学習してきた。「スイミー」では、描かれている場面の様子を実際に描いたり、場面ごとに動作化をしたりしながら場面の様子を想像し、読み取った場面の様子やスイミーの気持ちを音読や音楽劇の歌に表すという学習をした。「お手紙」では登場人物の気持ちを想像して話し合う中で、本文の言葉と結び付けるという学習をした。実生活の経験や、動作化から想像するという活動から、本文の言葉に着目することを意識し始めた段階である。

本単元では、「根拠を明らかにして人物の様子を想像する力」をつける授業を仕組みたいと考える。また、様子を想像し読み取る中で、一人一人が抱いたスーホや白馬をはじめとする登場人物への思いが伝わる自分なりの読み方を発見する機会としたい。

### (2) 児童の実態

つけたい力からみた児童の実態は以下のようである。

- |  |        |
|--|--------|
| A 叙述を根拠にして、人物の様子を想像することができる。           | ・・・10人 |
| B 体験や挿絵などから根拠をはっきりさせ、人物の様子を想像することができる。 | ・・・17人 |
| C 根拠をはっきり示すことはできないが、想像することができる。        | ・・・7人  |

二年生は本を読むことが好きで、自主的に図書館へ通う児童も多い。しかし、感想を聞くと「おもしろかった。」「かわいそうやった。」というものが多く、「何が」ということを話せる児童は少なく感じる。また、授業中では、意欲的に挙手する児童が増えてきたが、物語を最初に読んだ時点で抱いた登場人物に対するイメージや気持ちを話し、本文の言葉や挿絵とうまく結びつけることが出来ない児童も多い。

このような実態から、言葉や挿絵に着目して、そのときの人物の様子を想像する力をつけていきたい。「したこと」「言ったこと」や、様子を想像するのに大切な言葉にサイドラインをひく活動を繰り返して、根拠をもって想像する力をつけたいと考える。

また、考える範囲が広いと、どこを読むといいかわからない児童がいるので、全員がサイドラインをもとに動作化をし、その動作した部分の様子を想像させたい。

(3) 研究テーマにかかわって

**研究主題 仲間と共に学び合う子の育成**  
～考え、学び合い、高まる授業をめざして～

①研究内容1 「自分の考えをもつことができるようにするための指導のあり方について」

学習発表会で、おうちの人に「スーホと白い馬の様子が伝わる」音読を発表しよう。

という単元を貫く課題を設定し、2次の教材の読み取り活動に必然性を持たせる。

また、貫く課題の五つの言語意識は次のようである。

- 相手 : 学習発表会に来てくださったおうちの人
- 目的 : おうちの人にスーホと白馬の様子を伝える。
- 場面 : 音読
- 方法 : 根拠となる言葉とそこから分かる人物の様子をつないでいく。
- 評価 : 「スーホと白馬の様子が伝わったか」という感想を聞く。

②研究内容2 「伝え合う場の設定のあり方」にかかわって

登場人物の気持ちを想像すると、様々な文を根拠に意見を出してくる。しかし、友だちの意見を自分の意見と関わらせて聞くことは現段階では難しく、一人読みで考えた自分の意見を言うのが精一杯の児童が多い。本単元では根拠とする言葉を「したこと」「言ったこと」と絞ることにより、話し合いを焦点化させ、考えを深めていく場面を設定する。

③研究内容3 「1時間の学習の評価の場のあり方」にかかわって

本単元のつけたい力は、「根拠を明らかにして人物の様子を想像する力」である。本時はスーホの白馬に対する優しさや愛情を想像するのに、根拠となる「したこと」「言ったこと」を明らかにし、それを基にして想像をふくらませさせたい。想像をふくらませる手だてとして、実際に動作を行ったり、言葉比べをしたりすることを取り入れる。まとめの場面では話形を示して、兄弟に言うように話したスーホの気持ちをまとめさせる。

本時のねらい

「兄弟に言うように話しかけた」という言葉に注目して動作化や言葉比べをすることにより、スーホの様子や白馬に対する愛情を、根拠をはっきりさせて想像することができる。

本時の展開

学習内容	教師の指導援助（・）評価規準（＊）
------	-------------------

1. 前時までのふりかえりをする。

学習発表会でうちのの人にスーホと白い馬の様子が伝わる音読を発表しよう。

スーホのようすを考えよう。

2. 今日の場面を読んで動作化し、スーホの様子の分かるところを交流する。

はねおきる

- ・すばやく起きあがる。
- ・急いでいる様子が見られず、起きあがる。 ←
- ・「はねおきる」と書いてあるから、急いだよ。
- ・「はねおきた」のは、スーホは貧しいから羊が食べられてしまうと大変だからだよ。

「これから先・・・一緒だよ。」

- ・優しく言う。
- ・兄弟に言うようにと書いてあるから優しく言うよ。

3. 本時の課題を作る。

なぜ「兄弟に言うように」話しかけたのだろう。 ←

4. 「話しかけました。」と「兄弟に言うように話しかけました。」の言葉比べをする。

- ・優しく言う ・ゆっくり言う ・心を込めて言う
  - ・大事な羊を守ってくれたから、本当にありがとうと思っている。本当にありがとうという気持ちの時は、ゆっくり気持ちを込めて言うよ。 ←
  - ・汗びっしょりですごく頑張っているのが分かるから、優しく言う。
- その言い方に込められたスーホの気持ちを一人読みし、吹き出しに書く。

5. 全体交流をする。

- ・兄弟に言うようにと書いてあると、ほんとにありがとうという気持ちだと思います。
- ・兄弟に言うようにと書いてあると、白馬のことを大事にしている感じなので、優しく言うと思います。

6. 課題についてまとめる。

兄弟に言うように話しかけたところから、白馬に自分のために戦ってくれて本当にありがとうという気持ちだったと分かりました。・・・B・C  
兄弟に言うように話しかけたところから、自分のために一生懸命おおかみと戦った白馬をすごく大切に思っていると分かりました。だからこれからもずっと一緒にいたいと思いました。A

- ・スーホがどんな少年だったか、白馬を連れてきた時の様子を確認する。

- ・スーホの様子を考えるために、「したこと」「言ったこと」から考えるとい

- ・スーホの「したこと」「言ったこと」には、線が引いてある状態にしておく。

- ・動作の違いに注目し、そう動いた根拠の文を明らかにする。急いでる様子が見られない児童がいない場合には、教師がその役を行う。
- ・その時の気持ちの違いも問う。

「兄弟に言うように話しかけました。」という文に着目させる。人と馬を兄弟と表現することのおかしさに気づかせる。言葉比べをして、スーホの気持ちを想像する。

- ・兄弟に言うように「」を実際に言ってみて、スーホの言い方・その言い方に込められた気持ちを考えさせる。

・想像したスーホの言葉を、切り返しなが

- ・スーホの白馬に対する「したこと・言ったこと」で分かった様子や気持ちをまとめさせる。
- ・書き始めることができない児童に対し、スーホが兄弟に言うように話しかけたところから分かったことを書くよう声をかける。
- \* 「兄弟に言うように」という言葉を根拠にして、スーホの白馬を大切に思う気持ちをまとめることができている。